



輝け！北っ子！

文責：校長 大内雅之

2学期終了 ～命を守る冬休みに～

今日で2学期が終了しました。保護者の皆様には大変お世話になりました。そして、子ども達を無事に保護者の皆様のもとにかえせることを少しホッとしています。2学期の登校日の数は「89日」本来ですと「83日」の予定でした。2学期開始が早まった分の増加になりました。

日数的にはたった6日間の増ですが、中身的にはいろいろあった2学期でした。「新型コロナウイルス感染症拡大防止対応」という命にかかわる対応を常に意識しながらの学校生活はなかなか気を遣うものでした。いつ、誰がかかってもおかしくない状況ではあっても、学校が起因となる感染や拡大は絶対に起こさないという状況をつくることには心を砕いてきたつもりです。

北小の子ども達はもちろん、ご家族を含め、教職員も誰一人として「新型コロナウイルス感染症」にかかわらなかったことは本当に素晴らしいがんばりであると誇りに思っています。たくさんの制約がある中、自分の命を守ること、他の人の命を守れることを意識して行動し、学校での約束・新たな生活様式を守った結果だと思ふのです。「命があること」「生きていること」は当たり前のことではありません。

本日のテレビ放送による終業式では、2学期について振り返った後、冬休みに向けて子ども達と約束を交わしました。1学期末にも同じ約束をしていますが、あらためて話しました。言葉は単純ですが、内容は大変重いものだと思っています。それは、

何があっても「死なないこと」

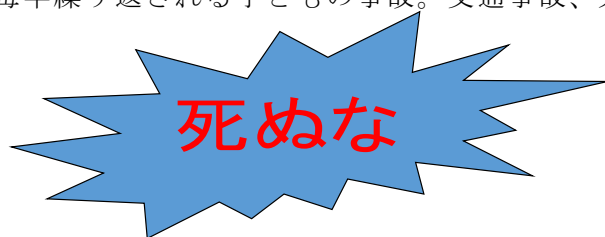
冬休みは楽しい期間であるべきにもかかわらず、毎年繰り返される子どもの事故。交通事故、火事、不審者……。ちょっとした心の隙・ゆるみ
大きな事故に結びついてしまうことを話しました。そして、事故に遭いたい、死にたいなんて思っていた子は誰もいないことを話しました。

冬休みはさらに、もう一つ約束を付け加えました。それは「**コロナ対応**」でした。人との接触、外出、冬休みという気のゆるみなど、感染リスクは大きくなるものと思っています。新しい生活様式を家庭生活の中でもしっかりと意識して行動することを求めました。

当たり前と思っていることは実は当たり前ではなく、突然なくなってしまうこと、突然変わってしまうことだってありえます。

「後悔先に立たず」です。

子ども自身がまずは、自分の命を守る行動をとることは前提になりますが、教師が、保護者が、子どもを取り巻くすべての大人がアンテナを高くし、配慮すべきことはしっかりと配慮することで防げることは何としても防がなければなりません。どうぞよろしくお願ひします。



2学期間、大変お世話になりました。1/8にまた会いましょう・・・。

※冬休み中に新型コロナウイルス感染症のPCR検査を受けることになった、濃厚接触者に特定されるかもしれない等ありましたら、必ず学校へもご連絡ください。

◆平日・日中 0243-23-0029

◆夜間・休日 080-2814-4808 (12/29~1/3も含む)